

4. 抗腫瘍性多糖体併用養子免疫療法による婦人科悪性腫瘍の克服

(産婦人科学) 星野泰三, 鈴木康伸, 武市 信, 牧野秀紀, 足立 匡, 柳下正人, 高山雅臣

【目的】抗腫瘍性多糖体Sizofiran が養子免疫療法において如何なる点でIL-2に対して増強効果を有するかを検討した。

【方法】婦人科悪性腫瘍患者10例の末梢血単核分画細胞を固層化CD3 フラスコ中でA群(IL-2 単独添加)とB群(IL-2 +Sizofiran 併用添加)に分け7日間培養した。培養前及び培養3日目と7日目に白血球膜抗原, 細胞数, NK活性, LAK 活性の変動を経時的に観察した。

【結果】白血球膜抗原CD25(IL-2Receptor)は培養3日目と7日目でB群はA群に比べ有意な上昇を認め, Sizofiran によるIL-2Receptorの増加作用が認められた。さらにリンパ球数及びNK活性とLAK 活性については培養3日目と7日目でB群はA群に比べ有意な上昇が認められた。

【結論】Sizofiran はIL-2Receptor数を増加することによりリンパ球数の増加及びNK活性とLAK 活性の増強を来すことが示唆され, 養子免疫療法においてIL-2増強因子として有用であると考えて臨床応用中である。

6. ASO, TAO における凝固線溶系の変動についての検討

(外科学第二) 池田克介, 矢尾善英, 伊藤茂樹, 川口 聡, 内村智生, 島崎太郎, 前田光徳, 横井良彦, 石丸 新, 古川欽一

対象は, 閉塞性動脈硬化症(ASO)35例, バージャー病(TAO)24例で, 凝固線溶系検査として, Fibrinogen, TAT, FPA, PIC, FDP-E, 血小板数, β -TG, さらに, t-PA, PAI-1を測定した。

凝固系の指標であるTAT, FPAは, いずれもASO, TAOで増加しており, 両疾患とも凝固系は亢進していた。線溶系の指標であるPIC, FDP-Eは, ASOで有意に増加しており, TAO ではその活性化は認められない。血小板機能に関しては, 血小板数はともに正常範囲であったが, β -TG は両疾患ともやや亢進していた。血管内皮での線溶活性に関与しているt-PA, PAI-1はt-PAはともに正常範囲であったが, PAI-1ではともに増加していた。

ASO では凝固系の亢進にともない線溶系の活性化がみられたが, TAO では凝固系が亢進しているにもかかわらず, 線溶系の活性化はみられず, なんらかの機序による線溶系の阻害状態にあることが示唆される。

5. von Willebrand病 Type II A 患者に認められた2つの新しい変異

(臨床病理学) 賀来雅弘, 萩原 剛, 稲葉 浩, 福武勝幸
(荻窪病院) 花房秀次

(国立小児病院小児医療センター) 稲垣 稔

von Willebrand病Type II A 患者のvon Willebrand因子遺伝子エクソン28内に新しい2つの変異を検出し得た。エクソン28の解析はPCRを用いた。PCR産物について変異をスクリーニングするため, Mutation Detection Enhancement (MDE) ゲル電気泳動によるheteroduplexの検出と各種制限酵素処理による切断を用いた。変異が疑われた部位につきDNAシーケンサーにより塩基配列を決定したところ, Gly⁸⁴⁰→Arg(GGA→AGA), Gly⁹⁰⁰→Arg (GGA→AGA)の2例の変異が同定された。これらの変異は変異のホットスポットであるCG dinucleotide中のものであった。